

タイガース隨想

吉田 義男（遊撃手）・村山 実（投手）



（阪神タイガース優勝パレード／神戸っ子ファンにもみくちゃにされて兵庫県庁前大通りをパレード）

ぼくは

神戸が大好きだ！

吉田 義男

夏はアスファルトに焼けつくような太陽。じんしんと指先きまで凍えてしまうような底冷えのする冬。奥行きの広い古い家、いまはけい光燈のおかげで明るくなつたがそれでもやはり暗い。そんな京都に育ったせいか、活動的なスポーツをやっているに似合わず、静かな雰囲気が好きである。長い習慣が自然と生活を支配してしまうのかも知れない。西に東にと旅から旅の明け暮れだが、どうしても静かな方向に足が向きがちになるようだ。

神戸はそういった意味からも気に入った街である。もつとも三方を山にかこまれた京都と港神戸では共通点は「静かだ」という以外にあまり見出だせない。だがぶりりとあてもなく出かけるときは、騒々しい大阪よりも神戸に足が向く。ことしは考えるところがあつて車を売り払ったがそれまでは交通事情の悪い大阪など見向きもないほどだった。神戸の好きな理由はそればかりではない。新らし



| 43 |



秋は酒
だれもが選ぶ
コクのある酒
灘の生一本

清酒
大黒正宗

安福又四郎商店醸

山小屋

三宮生田新道仲通
TEL 3-1811

A
B
U
H
A
T

世界の洋酒の店
T元
E
L町
③一
二
7丁
9
8目



All New Fur Full Fashion
ゴーディアスな毛皮の装いは62'のトップモード

毛皮の店
ウエダ
元町2丁目 ③ 0686

い魚がどしどし食べられることもある。京都という街は山国との関係で魚といえば乾物か鮮度のいい物ばかり。刺身とか生魚が好物のぼくにとってこれはこたえられない。すし屋のれんをくぐつてみてもビーチと生きのいいエビみるからに引きしまった感じのしろ身をみてると、中央市場の活況が眼の前に見えるようであれしくなってしまう。下戸のぼくでもつい盃を手にしたくなるくらいだ魚はやはりそれのものがいい

る。それに板前さんが不思議と阪神ファンが多いのも楽しい。話をしていると別にこちらに調子を合わしている風にも思えない。藤村さんのところからのファンだとう人がずい分といふ。ひんやりとしたしを舌の上にのせながら「優勝つていいもんだな」静かに喜びを二度味わったようなものだ。

「なにしろ15年ぶりですから優勝決定の日にウチの連中はテレビのそばにかじりつきですよ。本当によかったです」

神戸の人は家族的だ。いろいろの地方から出てくる人が多いと聞いているが、知らず知らずのうちに故郷以上に思いこんでしまうのだろう。たしかにそんな雰囲気が神戸にある。港の魔力といふのだろうか。それとも母性的な海がそういった環境を育むのだろうか。

十五年ぶりに阪神は優勝した。私もその一員として先日行なわれたパレードにオープニングカーに乗る喜びを味わった。甲子園を出発して神戸に向かう沿道には人また人で、神戸にもこんなにたくさん阪神ファンがいたのかと驚いたり喜んだり。延々五時間にわたるパレードもさほど疲れは感じなかつた。それというのももう一つの喜びがあつたからだ。

生き生きした舌さわりを味わつてみると疲れも吹きとぶ気持ちだ。材料にとり立てて注文はない。とにかく生きさえよければもうそれだけで胃袋が泣いているみたいだ。威勢のいい板前さんにさつとあざやかな手付きで握つて出されるともう「うんこれはいかず」口をもぐもぐさせながら思わずこんな声が出てしまう。ちょうど呼吸のピッタリ合つたけん制プレーと同じようなものだ。板前さんとぼくとの間はツツー・カーカーである



優勝の陰に

亡き母の愛情

村山 実

生き生きした舌さわりを味わつてみると疲れも吹きとぶ気持ちだ。材料にとり立てて注文はない。とにかく生きさえよければもうそれだけで胃袋が泣いているみたいだ。威勢のいい板前さんにさつとあざやかな手付きで握つて出されるともう「うんこれはいかず」口をもぐもぐさせながら思わずこんな声が出てしまう。ちょうど呼吸のピッタリ合つたけん制プレーと同じようなものだ。板前さんとぼくとの間はツツー・カーカーである

てからもう十年になった。今までは京都に帰るのも年に四、五回くらい。すっかりこちらの生活が板についてきた。京都は京都でそれなりに良さがあるが、いまでは魚のうまい方が住みやすい。それに神戸肉といえば全国でも有名、いや世界的だともいう。どうも食べ物の話ばかりだが、味覚の秋のせいかな。そやけど松茸なら京都が本場どっせ。

(遊撃手)

それだけに神戸は人一倍愛着の深いものと神戸生まれの神戸育ち

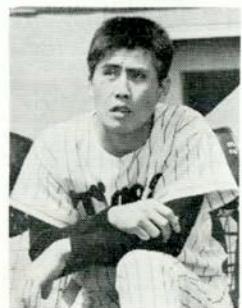
かいところだが、感慨ひとしおだったのは、その神戸の北野墓地に優しかった母が静かに眠つてゐるからだ。オープン・カーでファンの人垣にもまれるうちにもふと我れを忘れる瞬間があつたものだ。優しかった母の思い出。すでに一児の父となつたぼくに、なんとセンチなやつだと思う人がいるかも知れないが、それはそれっぽくにはやはり母が最高になつてしまい。

そもそも現在曲がりなりにも野球界に身を投じて働ける動機は母の並々ならぬ愛情からだつた。高校入学後私は野球にとりつかれたかのように毎日、毎日ボールばかりをおつていた。そんな私を見て父はよく「野球ばかりしていいで少しは勉強しろよ」と注意したものである。母はただひとり呼ばつてくれたのだ。

当時は戦後の混乱がまだおさまらず、食糧事情も現在とは雲泥の相違だつた。食べざかりの少年期、そのうえ野球の練習で家に帰るころはお腹にもうペコペコ。動くのもいやになるようなことも度々だつたそのころ。母は帰宅を待ちわびて必ず予分に食べ物を支度していくくれたのだ。食事時分をはすしておそくかえつてくる私の前に坐つて自分はなにも食べないで、つき合つてくれるその姿を暖かい

白い湯気こしに見出だしたとき、ふと涙ぐむ思いだつた。末っ子だけに余計に可愛かったのかも知れない。母の苦労をよそに私は伸び伸びと野球生活を楽しめ、伸び伸びと大きくなつていった。

高校時代は一無名校にしか過ぎず、勝利の喜びを味わう機会もあまりなかつたが、それでも母は絶えず励ましつづけた。『何クソ』と人一倍負けすぎらいになつたのこうした暖いカゲの援助があつたからこそだといまでもなつかしく思ひ出す。



その私にとって一番大きなショックは大学二年のとき、命にもかえがたい母を失なつてしまつたことだ。しばらくは食事ものどを通らなかつたほどだつた。

苦しい心境とは別に野球はめきめきとうまくなつた。その年神宮で行なわれた全国大学選手権大会にエースとして投げつけ関大初優勝に貢献出来たのだった。もつともいいことばかりはなかつたその翌年から肩を痛め、学生

生活の最後は不遇のうちに過ぎたちやはやしていた周囲も使えないと見ると無情なものだつた。潮がひくときのようにさつと消えていく人が多かつた。社会生活のむつかしさを実際に教えられたよう気がしたものだ。この失意のドン底で心の支えになつてくれたのがまた亡き母だつた。

「どんなに苦しいことがあつても決してくじけてはいけません。

最後までやり抜くのです」練習らしい練習もやれないで帰途につく後姿にそうさきやきかけては励ましつづけてくれた。「そうだ肩の痛みなんかなんだ。氣力ではねかえしてみせるぞ」その後肩にいいう薬、療法あらゆるものに飛びついて再びブレーントに立つ日を夢みて頑張ったおかげで、四年の秋にはどうにか投げられるようになり縁あつて阪神に入団した。

『藤村さんのような猛虎魂』が大好きだつたからだ。その阪神がことし十五年ぶりに優勝することが出来た。そして最高殊勲選手に選ばれる身にあまる光栄にも浴した。それでいてなにか物足りない氣持がかくせないのは、一緒に喜んでくれるはずの母の姿がみえなからだ。

立派だった

今年のタイガース

合田 督



いファイトが感じられた。

最高殊勲選手に選ばれた村山投手——彼は本当に一生懸命に投げていた。全く一途に投げているという印象を受けた。もちろん、野球は個人プレーで勝てるものではない。チーム全体の力が一つになつてこそ始めて“優勝”的栄冠をかちとることができるのである。それでも主将、吉田遊撃手の活躍はすばらしかった。十年選手としてのカン碌を大いに發揮した日本シリーズでの再三にわたるファンプレーとあの打撃成績！ち

つさくてもよく頑張つてました。日本シリーズ第六戦にはホームランを打ち対スコアにまでもつて、吉田選手の活躍に阪神、東映両ファンは敵味方のワクを越え限りない賞賛の言葉と拍手を送つてました。

私はこの吉田選手には、親身になつて応援している。——胸のすぐようなプレーもされることながら背格好が私に似ているという他愛もない理由からだが——私自身は真剣そのもの。「牛若丸」というニック・ネームがよい。キビキビして「ことと思えば、またあちら」の歌の通り、右に左にとあさに飛ひまわり、あわや／と思われる難球を無造作にさばく吉田選手のプレーに私は心からの声援を惜しまない。

それほど今年の阪神は立派だった。各選手の心意気には、まさにタイガーの名に恥じないすさまじ

私はヒネクレているのか？一番強くて威張つてゐるタイプは好かない。牛若丸の義経が好きだ、相撲では柏戸が好きだつたし、野球は阪神と南海——どちらかといえば時々、負けて泣きべそをかく

といったほうが我が身につまされ、無茶苦茶に肩を入れてしまふ私肩入れしたとてどうにもならないことは解つてゐるがやつぱりヒキには勝つてもらいたい。阪神よ来年こそは「日本」の栄冠を!! 野球といえば、私はこれまで

氣違ひじみた母校、早稲田ファンである。だから私の先輩の陰山、一年後輩の木村保のいる南海が好きで、それ以上に元早大監督森さんが社長で三原が監督、森徹のいる大洋が文句なしに大好きだった『だつた』というのは、そんな大洋ファンの私も、いつの間にか、好きな女性の阪神狂に影響(?)

されて、また同じ事務所の『瘋癲のふーさん』とアダ名される位、阪神のこととなると狂つてしまふFさんに突き上げられて(?)ついに阪神狂になつてしまつたわけだ。阪神タイガースは地元のチムだし、来年も、そして再来年もいやにこれからもすつと「眠れる獅子」でなく今年のような「猛虎」として頑張つてもらいたいものだ。はり切れタイガースよ!!

(三英物産社長
神戸青年会議所会員)

贈って喜ばれ

もらって重宝

菊秀の家庭用品

- 御料理庖丁
- 裁縫鉄
- 大工道具と工具
- SOLINGEN製鉄及びナイフ
- ステンレス食器
- 魔法瓶
- 錠及カーテンレール
- 石油ストーブ
- 世界の電気剃刃・安全剃刃

神戸・元町2丁目 山側
TEL KOBE (3)0276 390892

新古美術品

播

③ 神戸市元町三丁目
5
1
6



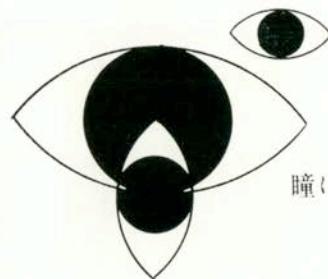
新



コスチュームアクセサリーの店

云 げい む 夢

神戸店・トアロード (3) 2293
大阪店・心斎橋ロビー
(211) 1044



瞳に美しさを保つ
スポーツに
美容に
現代の科学が生んだ
コンタクトレンズ

国際コンタクトレンズ研究所

神戸市垂水区御幸通八丁目九ノ一(三宮駅前)
神戸国際会館内 TEL(22)8161・8361



HENS SHOP
セントラル
東京洋品の店
千秋堂
元町 4 丁目④6959

クラシック調の
スポーツウェア
ニットウェア



男子洋品の店
神戸屋

元町2・TEL(3)2589



| 49 |



あらゆる電器製品の店
元町電機
暖たかい冬に暖房スリッパ
元町6 ④3701~5

YE AULD SHIRT SHOPPE



よろず御親衣仕立處
神戸シャツ
神戸大丸前 TEL ③2168



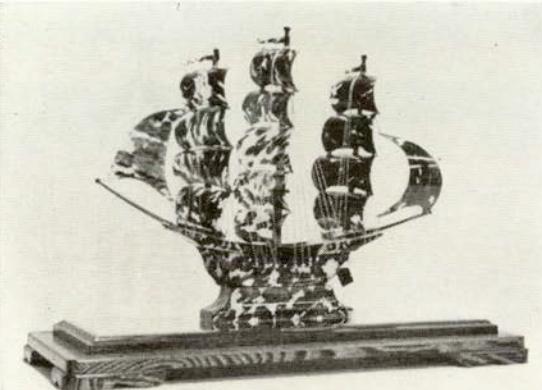
ハイセンスの紳士服で
最高のオシャレを
元町4丁目 三恵洋服店
TEL ④7290



みんなに贈って喜ばれる
風味豊かなカステーラ!
<元町6丁目> 長崎堂本店
本店7-4402元町4-4130
神戸新聞会館秀品店・阪急



Toilet articles & accessory 化粧品
アクセサリー 絹屋
西店・三宮柳商店 3-5778
本店・甲南本通 85-0250



センスあふれる

べっ甲の専門店

元町一丁目

太田鼈甲店

TEL ③ 6195

新しいセンス、フランス調の
ヘヤースタイル

美容室

あきら

西野 明

御電話の御予約いたしております

三宮本通り TEL ③ 4461・6458

KOBE

SUGIYA

ハンカチと下着の店
トア・ロード TEL ③ 3436



ロマンスの秋

近づいた

楽しい冬に

スギヤの

プレゼント…



高級紳士服専門店

神戸テーラー

オーダーメード・イージー
オーダー・レディメード
生田区北長狭通2
(省線高架通50) ③ 2817

天罰

陳舜本宏臣



びていたのだ。

「まあ、落ち着けや」八郎は言つて、背をのばした。
「なんぼ借りとったかいな？」

「元利あわせて、二百三十二万円や」小笠原の声は、
不安のためか、かすれていた。不吉な予感が彼の胸をか
すめた。

「返したろ。会う度びにブウブウ言われたらかなわ
ん」

八郎はポケットに手を入れて、新聞包みをとり出した。

「借用証返してんか」

「金勘定して、数が合うてたら返すがな」

「借用証出さんと、わい、金渡さんぞ」

八郎の語氣に気押されて、小笠原は手提金庫をもち出
して、「あなたの借用証はこの中にある。勘定すんだら
確かに返すわいな。鍵もちやんとここに置いとくがな」

「ほんなら、勘定してみイ！」

「なんや、こんな夜中に。金でも返しにきたんか？」
高利貸の小笠原は、ヒマラヤ杉の八郎が来たのを見て、
言つた。

「金は返したるで」八郎は答えた。

「そやけど、おつ

さん、ようも人まえで恥をかかせてくれたな。そのお礼
もせんならん

「人まえで恥をかかせたやで？」

「みんなのまえで、金返せ、言うたやろ？」

「人に金借りといて、期日がきててもかやせへん。こつ

ちも商売や。催促もせんならん

「わいをなめとんのか？」

長身の八郎は身をかがめて、目をむいた。左目の下に
大きな傷あとがあるので、すごみは引きすぎるほどであ
る。

小笠原はにらみ返したが、ふと不安になった。相手の
目がいつもとちがっている。なにか、ただならぬ光を帶
ぶ

八郎は新聞紙包みを投げた。小笠原がそれに手をのばしたとき、八郎はベルトにはさんで上衣にかくしていった棍棒を、そつと取り出した。小笠原は包みを開いた。なかも紙幣の形に切った新聞紙の束であった。

「なんやこれ！」小笠原が憤然と見上げた瞬間、八郎の手にあつた棍棒が、高利貸の脳天めがけて、うなりを生じて振りおろされた。

六十をすぎていたとはいへ、小笠原は岩乗な体の持主だった。しかも、顔をあげたところなので、脳天と思つたところは、額になつていていた。

「う、う……」額を朱に染めて、小笠原は呻いた。

「しつこいおつさんや。一発でお陀仏せんとは、よつしや、もう一発やつたら」

八郎は棍棒にツバを吹っかけた。

「ひ、と、こ、ろ、し……」

小笠原は絶叫したつもりだが、舌がもつれて、蚊の鳴くような声しか出なかつた。

「おつさんよ、息のあるうちにようきいとけ。わいはない、用心に用心してここへ来たんや。誰にも見られとらへんあとで警察にしらべられたかて、わいはいま、ころ親友の家で酔いつぶれてることになつてるんや。な、あんまり苦しめるのも可哀そうやからもう一発やつたる。こんど生まれかわつたら、あんまり因業なマネするんやないで」

八郎の棍棒は、こんどは狙いたがわず、脳天にうちおろされた。そのあとで、八郎は脛のうえの鍵をひろつて手提金庫の鍵穴にさしこもうとした。

「あ、やりやがつたな」八郎は唇をかんだ。

鍵は鍵穴よりもずっと大きいのだ。小笠原は本能的に危険を感じたらしい。万のときも、相手に一杯くわせてやろうという、しぶとい根性だったのだ。

「しゃらくさいことさらしやがつた」

八郎は手提金庫をとりあげ、死体のほうを見やつて、薄笑いをうかべた。書類や紙幣しかはいっていないので

そんなに重くはない。このまま頂戴したほうがよい。金庫の跡始末は、またあとでゆっくり考えればいいのだ。
金庫の鍵で、八郎がすこし動搖したのはたしかだ。すくに対策を考え出したので、自分では落着いたつもりだつた。

が、やはり動搖は尾を曳いていたのだ。高利貸の家から、あまりにも無造作に表戸を開いて、そとへ出た。自分の落着きぶりを、自分に示そうとしたからかもしれない。

本来なら、細目に戸を開け、あたりに人がいないのをたしかめてから外へ出るのが定石である。それを怠つてしまつたのだ。

なんということだろう！ ちょうど隣家からも一人の男が外へ出たところだった。その男は堂々たる体格をしていた。ヒマラヤ杉の異名のある八郎も背は高いが、その男は同じくらい高い高いうえ、もつと逞しい体つきをしていた。ぎょりりと八郎を見たその男の目は、不気味といつていほどぞくしく光つた。

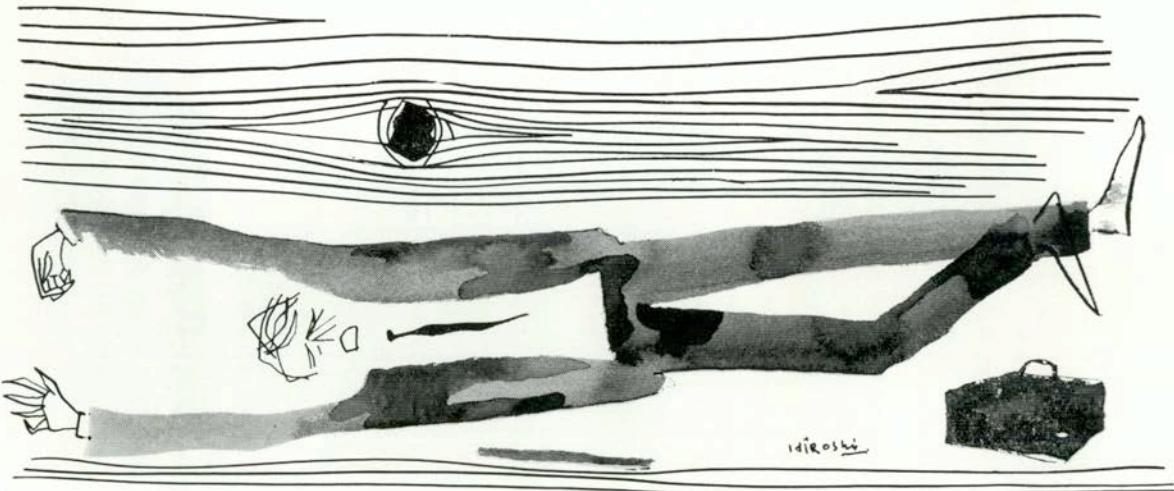
「しまつた！」八郎は心のなかで叫んだ。

小笠原家の門燈はあるかれた。そして、彼は左の下に、決定的な目じるしとなる傷あとがある。アリバイ工作はしてきたが、目撃があらわれては、なんにもならない。

半丁ほど行ったところは崖になつていて了。崖のそばに電柱があつて、防犯燈がとりつけてある。そこまでは一本道だ。八郎はその電柱のところまで行つた。そして手提金庫を地面におろし、電柱にむかつて、小用を足す恰好をしながら、相手が近づくのを待つた。

相手をやりすごして、うしろから一撃。それで、目撃者をこの世から消せるのである。相手から見えないほうの手に、例の棍棒をぎりしめて、彼は待つた。

……相手が八郎のうしろを通つた。一步、二歩、そして、八郎はふりかえろうとした。が、彼はその場に崩れるように倒れてしまつた。相手の男が、通りざま、八郎



に当て身をくわせたのである。

くだんの男は「ヒヒヒ」と氣味のわるい笑い声をもらした。目の光も尋常ではない。

八郎の殺意をとつさに感じて、機先を制したのであるか? それにしては早すぎた。棍棒を握った八郎の手はまだこしも拳がっていなかつたし、彼の体も、まともに相手のほうへむきをかえてはいなかつた。

「ヒヒヒ……」その男は泣くような笑い声をたてて立ち去つた。しばらくして、彼の姿は、崖のうえにあらわれた。彼はそのへんにころがっている大きな岩を両手でもちあげ、狙いをさだめて、崖下におとした。崖下には八郎が気絶して、あおむけに横たわつている。岩は八郎のうえに落下して、胸から腹にかけての部分をおし潰した。

「ヒヒヒ……おれがあそこの家から出るのを見たからや。こいつが死んだら、もう誰にもわからんやろ。ヒヒヒ……春坊! カタキはうつたぞ、安心しイや!」

そう言つて、男はゆっくり歩きだした。

崖下で岩につぶされている男は、翌朝になつて発見された。身許はすぐにわかつた。ヒマラヤ杉の八郎という悪名高いやくざである。

ところが半丁も離れていない高利貸の小笠原家で、主人が鈍器で頭を割られて死んでいた。そして、その隣りで一人暮しをしている鳥羽というドライヴィングがいの後家さんも、やはり家の中で首をしめられて死んでいた。

「ヒマラヤ杉の八郎が、立てつづけに二軒、押しこみ強盗にはいりよつたんです」

G 刑事は自信をもつて断言した。

八郎の死体のそばには、棍棒と小笠原家の手提金庫があつたのである。

「後家さんのほうは、しかし棍棒じゃなく、しめ殺されているが?」と署長がきいた。

「女やから棍棒を使うまでもないと思つたんですやろ」G 刑事は答えた。

「鳥羽家ではなにも盗られていないが?」

「あの後家さんは、金をもってないんです。自動車きちがいで、半年ほどまえに子供をひき殺して……ほら、あの警察で柔道を教えた岡田はんの坊ちゃんを……」

「ああ、おぼえてる。春夫君だつたな」

「あれは示談で解決したんですけど、後家さん、あり金ぜんぶ慰謝料に払つたそうです。残つてるのは自動車一台だけ……」

「なるほど。裏に自動車が置いてあつたね。車があるから金があると思って、押し込んだが、金はない。さわぐ女をしめ殺したが、くたびれもうけてシャクにさわって、ついでに隣りの高利貸を襲つたというわけか」

「高利貸から金庫をせしめたが、崖下を通るとき岩が落ちてきて……天罰ですな」

「上から岩が落ちてきたら、頭にあたるはずじゃないか?どうして胸や腹に?」

「岩の落下に気がついて、あわててよけようとして足をすべらしたんでしよう。ひっくり返つたところへ、岩が……」

「そらだらうな。天罰か」署長は呟いた。

「こないうまいこと天罰があたるやなんて、珍しいですな」G刑事も合図をうつた。

「可哀そらなのはあの後家さんや。わるい噂一つなかつたのに。……子供をひき殺した罰が当つたのかな?」

「あれも天罰ですか?」

犯人が奇禍に遭つて死んだので、むろん捜査を要する事件とはならなかつた。

一ヶ月ほどして、須磨区のある交番のまえで、一人の大男がわめいていた。

「あの女はおれが殺したんやぞ! 春坊のカタキをうつたんや。おれが、あいつをこの手でしめ殺したんやぞ。ウソや思たらあそこで小便しとつた男にきいてみイ!」すこし首をかしげて、「あいつも、死んでしまよい

たんかな?」

交番のなかには、二人の巡査がいた。

「岡田はんは春坊が死んでから、ちょっと気がへんのなつたけど、最近、それがよけいひどなつたやないか?」

「そやな」もう一人の巡査は言つた。「可哀そうに。

もう病院へ入れたほうがええなあ」

年をとつたほうの巡査がそとへ出た。

大男はまだわめきつづけていた。

「おれが殺したんやで! なんでおれをつかまえへんのや?」

「いいから、いいから」巡査は狂つた柔道師範の肩をたたいて、「あんまり興奮しなさんな。とにかく私がついて行つてあげる」

「刑務所か?」

柔道家は胸をはつて、たずねた。「ちがいますがな、先生。お宅までね」(この項おわり)

秋の小豆島

小磯 良平

小豆島には画友の古家新さんのアトリエがある。古家氏が選んだ場所は、土庄・坂手の間にある、西浦の内海(うちのみ)といふところになる。そこは入江になつていて、オリーブが美しいところである。この古家氏の隣に梅田画廊が家を持っていて、そこに滞在して画を描いた。秋の小豆島は瀟洒なたづましいがよい画題になる。私は好きなものだから時々出掛る、流石に海辺だから新鮮な魚がふんだんにあるのも楽しみの一つだ。ちょうど古家氏のアトリエに高松からの帰途だといわれて滝川清一氏ご夫妻が立寄られ、話が神戸のことではづみ愉快な一刻をもつことが出来た。関西汽船で四時間で小豆島に着く、表紙は舞子丸の船上でスケッチしたもの、秋の船旅は快適そのものであつた。

編集後記



☆ 今月は花時計のかわりに、ちょ
うど、みなと祭の日、朝日新聞十
月二十二日朝刊第四頁(全国版)
の季節風の欄に「月刊神戸つ子」を
ご紹介下さいました。神戸つ子の
歩みに大きな励ましたくなり、編
集員一同感激していただきまし
た。特に右欄に再録させていた
まし、お月刊神戸つ子発行の都度、朝
日新聞(神戸版)で内容の紹介のつ
紹介下さいました。

月刊「神戸つ子」案内

☆ 月刊「神戸つ子」を毎月御購
読下さいます方、神戸を離れていい
るお友達にプレゼントなさりた
方は編集室宛にお申込下さい。

月刊「神戸つ子」No. 20
をいたたいています。誌上ですが
重ねて感謝いたします。

☆ 神戸には縁の深い松方コレクシ
ョンが開催され、「神戸つ子」の
話題をあつめています。今月は文
化の月です、そこで音楽・美術・文
演劇界の最高の評論家スタッフで
神戸市の宮崎助役にもご出席いた
たいて、神戸の文化をどう創るか
という問題で御意見を伺いました
文化不毛の地などと云われる奇妙な
ニックネームを早く返上するため
にも、「神戸つ子」は頑張りました
よう。

☆ 鴨居玲氏が全快され、女性アチ
ラこちらを復活して執筆いただき
ます。ご期待下さい。今月号はうま
いもの巡礼・神戸だからえがく夢
す。都合で休載させていたたきました
(小泉)

(4)

月曜日

昭和37年10月22日

月曜

午前

午後

深見隆
季節風

都市のデザイン
は神戸の子の手でどうわ
れ【第十八号】

街並みがなぜかおなじい
理由【第十九号】
街並みがなぜかおなじい
理由【第二十号】

街並みがなぜかおなじい
理由【第二十一号】
街並みがなぜかおなじい
理由【第二十二号】

街並みがなぜかおなじい
理由【第二十三号】
街並みがなぜかおなじい
理由【第二十四号】

街並みがなぜかおなじい
理由【第二十五号】
街並みがなぜかおなじい
理由【第二十六号】

街並みがなぜかおなじい
理由【第二十七号】
街並みがなぜかおなじい
理由【第二十八号】

街並みがなぜかおなじい
理由【第二十九号】
街並みがなぜかおなじい
理由【第三十号】

街並みがなぜかおなじい
理由【第三十一号】
街並みがなぜかおなじい
理由【第三十二号】

街並みがなぜかおなじい
理由【第三十三号】
街並みがなぜかおなじい
理由【第三十四号】

街並みがなぜかおなじい
理由【第三十五号】
街並みがなぜかおなじい
理由【第三十六号】

街並みがなぜかおなじい
理由【第三十七号】
街並みがなぜかおなじい
理由【第三十八号】

街並みがなぜかおなじい
理由【第三十九号】
街並みがなぜかおなじい
理由【第四十号】

街並みがなぜかおなじい
理由【第四十一号】
街並みがなぜかおなじい
理由【第四十二号】

街並みがなぜかおなじい
理由【第四十三号】
街並みがなぜかおなじい
理由【第四十四号】

街並みがなぜかおなじい
理由【第四十五号】
街並みがなぜかおなじい
理由【第四十六号】

街並みがなぜかおなじい
理由【第四十七号】
街並みがなぜかおなじい
理由【第四十八号】

街並みがなぜかおなじい
理由【第四十九号】
街並みがなぜかおなじい
理由【第五十号】

街並みがなぜかおなじい
理由【第五十一号】
街並みがなぜかおなじい
理由【第五十二号】

街並みがなぜかおなじい
理由【第五十三号】
街並みがなぜかおなじい
理由【第五十四号】

街並みがなぜかおなじい
理由【第五十五号】
街並みがなぜかおなじい
理由【第五十六号】

街並みがなぜかおなじい
理由【第五十七号】
街並みがなぜかおなじい
理由【第五十八号】

街並みがなぜかおなじい
理由【第五十九号】
街並みがなぜかおなじい
理由【第六十号】

街並みがなぜかおなじい
理由【第六十一号】
街並みがなぜかおなじい
理由【第六十二号】

街並みがなぜかおなじい
理由【第六十三号】
街並みがなぜかおなじい
理由【第六十四号】

街並みがなぜかおなじい
理由【第六十五号】
街並みがなぜかおなじい
理由【第六十六号】

街並みがなぜかおなじい
理由【第六十七号】
街並みがなぜかおなじい
理由【第六十八号】

街並みがなぜかおなじい
理由【第六十九号】
街並みがなぜかおなじい
理由【第七十号】

街並みがなぜかおなじい
理由【第七十一号】
街並みがなぜかおなじい
理由【第七十二号】

街並みがなぜかおなじい
理由【第七十三号】
街並みがなぜかおなじい
理由【第七十四号】

街並みがなぜかおなじい
理由【第七十五号】
街並みがなぜかおなじい
理由【第七十六号】

街並みがなぜかおなじい
理由【第七十七号】
街並みがなぜかおなじい
理由【第七十八号】

街並みがなぜかおなじい
理由【第七十九号】
街並みがなぜかおなじい
理由【第八十号】

街並みがなぜかおなじい
理由【第八十一号】
街並みがなぜかおなじい
理由【第八十二号】

街並みがなぜかおなじい
理由【第八十三号】
街並みがなぜかおなじい
理由【第八十四号】

街並みがなぜかおなじい
理由【第八十五号】
街並みがなぜかおなじい
理由【第八十六号】

街並みがなぜかおなじい
理由【第八十七号】
街並みがなぜかおなじい
理由【第八十八号】

街並みがなぜかおなじい
理由【第八十九号】
街並みがなぜかおなじい
理由【第九十号】

街並みがなぜかおなじい
理由【第九十一号】
街並みがなぜかおなじい
理由【第九十二号】

街並みがなぜかおなじい
理由【第九十三号】
街並みがなぜかおなじい
理由【第九十四号】

街並みがなぜかおなじい
理由【第九十五号】
街並みがなぜかおなじい
理由【第九十六号】

街並みがなぜかおなじい
理由【第九十七号】
街並みがなぜかおなじい
理由【第九十八号】

街並みがなぜかおなじい
理由【第九十九号】
街並みがなぜかおなじい
理由【第一百号】

月刊「神戸つ子」No. 20
発行/S 37. 11. 1
編集・発行/小泉康夫
神戸市東区御幸通8丁目9ノ1
国際会館一階
TEL (070) 37. 11. 1
発行所/月刊「神戸つ子」編集室
会田書店・大正筋商店街
漢口堂・京町筋角
日東館・丸前
流泉書房・センターハー
文洋堂・国際会館

神山若森百宮松古橋中直永田田竈白坂古後久小小木島川金大小國岡牛櫻石青安
吉口移崎崎地井川富西木井中村川崎川本林森保林城下納西井浦根部崎尾並野木倍
会業一了辰義高虎芳太遠龍孝勝一喜木其芳良正元ノ真伊真吉正成重正
議所弘慧三進二男夫美勝郎七郎會二郎福勝業忠矢平繁治英彦ム益子一朗一明雄夫
お發行に色々と
お世話いた
お方々

- 本誌広告により広告主へ直接御注文やお問合せの際は、神戸っ子、広告による旨お書き添え下さい。
- 広告主の住所不明な時は、神戸っ子、編集室にお問合せ下さい。お取次いたします。
- 「神戸っ子」に且ちお詫び御希望の向きは、神戸っ子、営業部宛御頼金下さい。「神戸っ子」編集室



秀品店 友の会 発足

あなたと秀品店を結ぶ「秀品店友の会」が
神戸新聞会館ボーリングセンターの開場と
同時に発足することになりました…

- お買い上げ300円以上のお客さまに
「秀品店友の会」会員証とシールをお渡しいたします

7 COLLECTION

シールは7色あります この色が揃えば景品を進呈
●神戸の街々は冬の支度を初めました
ここ三宮秀品店もおしゃれの冬にふさわしく
紳士服・婦人服・洋品雑貨・靴・編物・手芸・カメラ・時計
装身具・真珠・化粧品・趣味の人形・切手・玩具・レコード
・万年筆・メガネ・コンタクトレンズ・印刷・ゴルフ用具
和・洋菓子・舶来食料品などエキゾチックなセンスある優秀
品をとりそろえました。



神戸唯一の高級専門大店

秀品店

国鉄三宮駅前
神戸新聞会館 1階
AM 10時～PM 8時

ナショナル

暖かい 暖かい 赤外線！



'63年型

赤外線健康コタツ

太陽の暖かさ……
赤い光でシンから
ポカポカ！

300ワットと80ワットに自動
調整する独創の赤外線ダブ
ルヒーター。

赤い光がヒフ深く通つて血
行をさかんにし、身体のシ
ンから暖めますから、健康
と美容にも役立ちます。

ナショナルがトップをきつ
て3年目、家庭医療器具と
して特に認められたホーム
コタツです。

しかもサーモと温度ヒュ
ーズの2重安全設計。

ヤグラは掛ふとんを傷めな
い傾斜形です。

赤外線健康コタツ
DW-3000L2 300W

現金正価 四、七五〇円

月賦定価 四、八九〇円

(一時間の電気料金・約一円三九銭)